

テーマ1「親しみやすさと力強さを備えた機能的な施設づくり」及びテーマ2「周辺環境と調和し警察らしさを感じさせる魅力ある施設づくり」についての提案

まちを見守る現代の常夜灯

地域の歴史文化と共存する安心安全の拠点

近年の交番における相談内容は、事件・事故だけでなく、この地に訪れる人々の道案内から身近な人による暴力まで多岐に渡ります。そのため、守ってくれる・頼りになるという警察らしい力強さだけでなく訪れやすく、身近に感じられることが大切だと考えます。小さなヴォリュームを寄せ集めた交番のデザインは、正義の光を頂く塔に寄り添う人々を表しています。



駅前小さなランドマークとなることを目指します。



親しみやすい開かれた客溜り。内装にはアカマツなどの県産材を使い、明るく温かみのあるインテリアとなります。



勤務者が日々気持ちよく過ごせる空間をつくります。

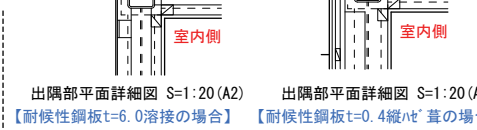
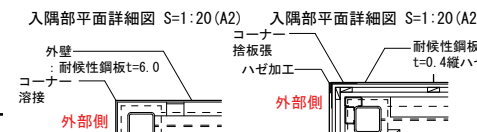
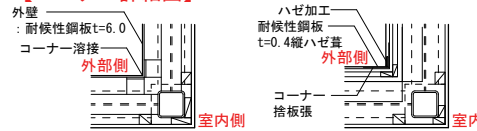
スケジュール・コストコントロール

【**構法から工場制作と現場作業の合理化**】
鉄骨造の特徴を活かした**プレファブリケーション**を計画します。設計段階で工場制作可能な部位を綿密に打ち合わせて、現場の作業を減らし合理的なスケジュールをまとめます。

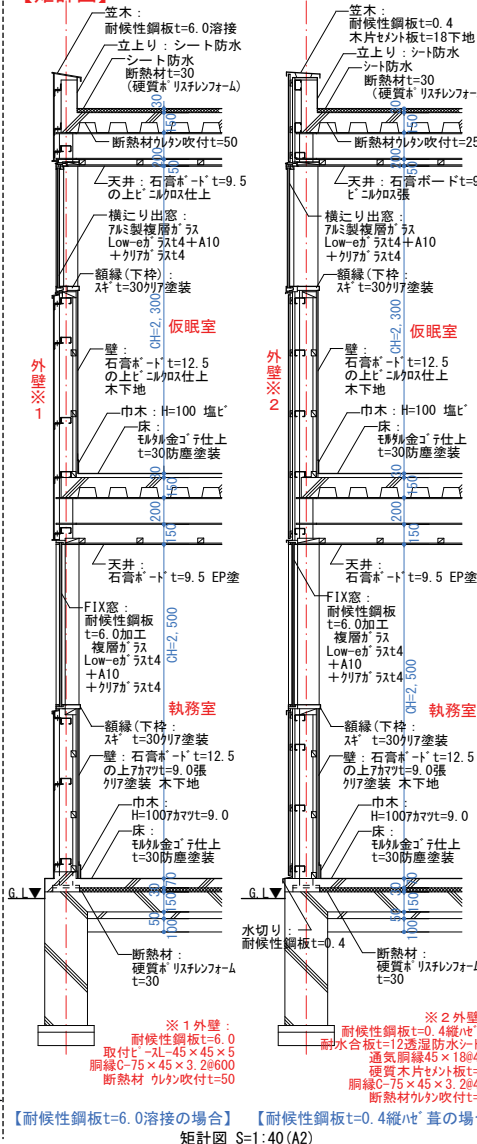
【**イメージを変えない外壁の選択技**】
コストの割合が高い外壁は、耐候性鋼板の厚さによって、6.0mmの溶接または0.4mmの縦ハゼ葺きなどの**選択肢を検討しながら**、垂直性の高いデザインのイメージを変えずに予算内に収める設計を行います。

施工計画

【コーナー詳細図】



【矩計図】



テーマ1「親しみやすさと力強さを備えた機能的な施設づくり」

① 凸型のボリュームと素材の持つ2面性 一親しみやすさと力強さ

【記憶に残る小さなランドマーク】

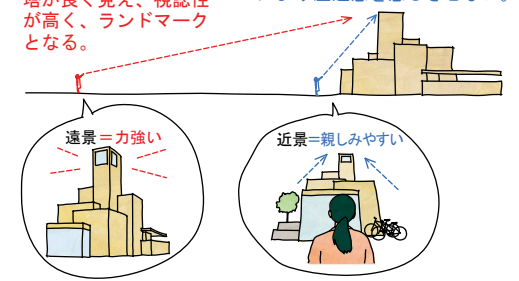
塔のある凸型のヴォリュームは、遠くから見ると視認性が高く、警察らしい力強いランドマークとなります。また一方で、近くに寄るとボリュームがセットバックしながら積み上がっているため、手前のヴォリュームが奥のヴォリュームを隠して圧迫感を軽減し、親しみやすいスケールになります。

【素材による2面性】

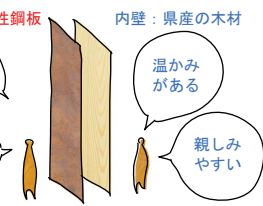
外壁は広島県の主要産業である鉄鋼を継承した耐候性鋼板を採用します。耐候性鋼板は、力強さの表現を持ち合わせながらもメンテナンスフリーな素材です。また、経年変化によって成長する肌合いは、鉄鋼の街に生きる人々との時間の共有でもあります。利用者から見える内壁は、広島県の県産材であるアカマツの間伐材を使用します。外壁と調和しつつ、柔ら

【駅前ロータリーから】塔がよく見え、視認性が高く、ランドマークとなる。

【前面道路から】セットバックさせたボリュームにより圧迫感を感じさせない。



外観の持つイメージの2面性

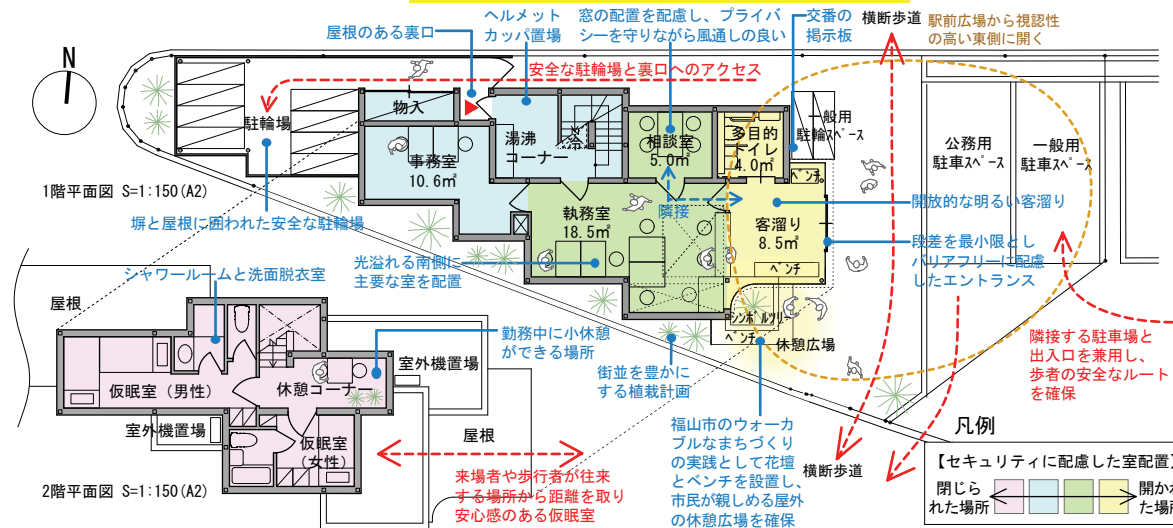


素材の持つイメージ

③ グラデーションのある機能的な平面配置

【奥性のあるセキュリティ】

福山駅南口のロータリーから視認性の高い東側にエントランスを設け、横断歩道を渡る人のルートに接続した客溜りを計画しました。交番がまちなかの小さな居場所となるように、屋外に休憩広場とベンチを設けました。客溜りから敷地西側と2階へ向けて、段階的にセキュリティが高くなるように計画をしています。2階の休憩コーナーでは、塔の高い天井から空が望める空間になっており、**当直勤務でも精神的に落ち着ける時間を過ごせます。**



② 軽量化に配慮した構造計画

【軽量化に配慮した上部構造】

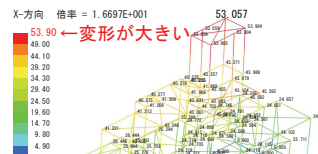
建物重量が軽減でき、かつ強度が安定した構造材である鉄骨造を採用します。架構形式は検討の結果(右図)ブレース構造を採用し、地震時の建物の変形を抑えたバランスのよい架構とします。またブレース構造とすることで、ラーメン構造と比較して各柱のサイズを小さくすることが可能です。

【災害時にも安定した基礎構造】

敷地の区域は液状化しやすい地盤であるため、液状化しない安定した地盤を支持層とする杭基礎を採用しています。交番という災害時にも機能する必要があることを踏まえ安定した基礎構造であるといえます。



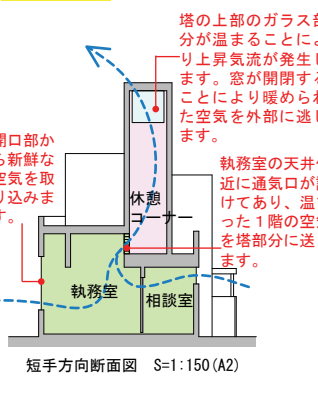
検討案1: ブレース構造/柱口=100x100採用



④ 環境装置としての塔

【塔を利用した重力換気システム】

塔の頂部は、開口部からの日射によって温められて、1階から自然な空気の流れを誘発し、開閉する窓から外部に空気を逃します。塔は、**室内を衛生的に保ち、快適性を維持するための環境装置**となります。また、外壁内に断熱材を十分に充填することにより、**安定した室内環境**をつくります。



テーマ2「周辺環境と調和し警察らしさを感じさせる魅力ある施設づくり」

① まちを見守る常夜灯としての交番

【駅前の常夜灯としての交番】

この交番は、都市のダイナミズムに揺るぎない光を与え続ける常夜灯としての役割も担います。**まちを見守る警察官の存在と一体となり、住民と訪れる人々にわかりやすく安心できる魅力的な風景**を作ります。

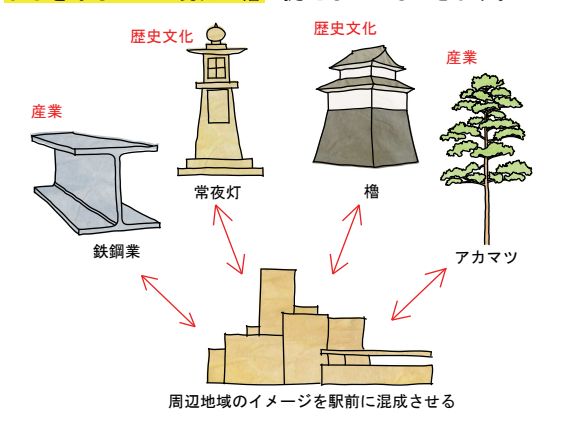


塔の窓に灯る明かりはまちを見守る安心感をつくります。

③ まちのイメージの混成系

【駅前空間と周辺地域をつなげる】

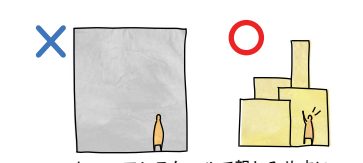
福山駅周辺デザイン計画にも謳われているように、**福山駅と周辺地域の魅力ある風景を混成することでまちのイメージの定着させる新しいシンボル**を目指します。例えば駅の浦の常夜灯のようなシルエット、町の主要な鉄鋼産業を表現する耐候性鋼板、インテリアに外壁の赤錆と調和する県産材であるアカマツの間伐材を使用します。また、福山城の城郭から線路を超えて南側に築かれた、**まちを守るための現代の櫓**と捉えることもできます。



② 風景を人に近づける

【スケールアウトした風景を修景する】

駅前の西側にある当該敷地は、北に高架鉄道、南側に大型ホテル、キャスパ跡地の再開発など巨大な施設に囲まれています。この交番の**小さなヴォリュームの寄せ集めたデザインは、巨大な施設が迫る駅前の風景をヒューマンスケールに近づける調整を担い周辺環境の調和を図ります。**また、小さなヴォリュームの集積であることから、設計条件が変更したとしても、あまり外観の印象を変えずに調整可能な設計手法であるといえます。



ヒューマンスケールで親しみやすい

④ まちづくりと連携して愛される施設づくりへ

【立ち寄れる場所には愛着が増す】

まちづくり会議と連携し、市民とまちづくり活動の接点となることを目指します。具体的には、まちづくり掲示板や意見BOXを設置することを考えていますが、**事前に市民やまちづくり団体へヒアリングを行い、必要な機能を付加させることが大切**だと考えます。また、休憩広場にベンチを設置し、**ウォークアブルなまちを実現するための一助**となります。この交番が人々の交流のきっかけとなり、**建物への愛着を育みます。**



まちづくりとの連携のアイデア